

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんこHOUSE		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様や保護者様の安心感や満足度が高く、楽しくご利用いただけている。	・事前の支援会議の機会を通して、個々に沿った活動設定や目標設定を行うことができています。 ・活動や玩具、器具の種類が多く、選択肢が充実している。 ・利用児に対しての支援・声掛けの手法を共有しており、肯定的に活動へ取り組むことができています。	・支援者の手技、技術向上を狙った研修、情報共有の機会をより充実させる。 ・活動や玩具、器具の定期的な入れ替えや新しい取り組みを検討する。
2	利用児を多角的な視点で評価・支援することができている。	・医療職・保育士・看護師などの配置があり、それぞれが専門的な視点を持って評価やアセスメントを行い、支援に活かしている。 ・保育所等訪問支援も実施する多機能型事業所であるため、園等の地域での様子や就学後の情報などを踏まえて支援を検討している。	・職員研修や事業所内会議、情報共有の場の充実を図る。 ・外部研修の機会を積極的に活用する。 ・家庭での様子をより細かく把握できる仕組み、アセスメント方法を検討していく。
3	保護者へ現在の発達状況やお悩みについての助言などを適切に行えている。	・定期的な評価・アセスメントをもとに情報共有を行うため、利用児がどれだけ成長したか、より客観的な視点で判断することができる。また現在の支援効果の評価もできるため、家庭での利用児との関わり方についても的確な助言を行いやすい。	・保護者がアセスメントや支援の内容理解をより図れるよう共有機会、手段の拡充を図る。 ・日常生活の困り感を拾いやすいようなアセスメント方法、面談手技、環境設定を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎対応が主で、保護者が基本来所されない際の情報共有する機会が少ない。	・保護者の就労状況によっては、サービス提供時間内で来所することが難しいことも多く、事業所送迎での利用や祖父母が送迎対応をする場合も多い。	・当事業所からご家族へ積極的に発信する ・母子登園が可能なご家庭、または母子登園が可能な日があれば協力を依頼する。
2	地域住民との関わりが少ない	・感染や防犯面を考慮した際、当事業所主催のイベントへ地域住民の方をお招きする対応が難しい。今年度はイベントにて地域小学生をお招きする機会や、地域(小売店)との関わりを持つ機会を活動として実施することができた。	・今後も継続して地域(小売店など)へ当事業所から出向く活動を設定しながら繋がりを作っていく。